

Excel の帳票出力

データつき

帳票出力でよく使用される Excel を例に挙げ、Asprova から帳票を出力し、そのまま Excel を起動して印刷する設定をご紹介します。

アスプローバ株式会社
2008 年 7 月 (Ver.6) 版

<http://www.asprova.com/jp/engineer.jp/>

はじめに

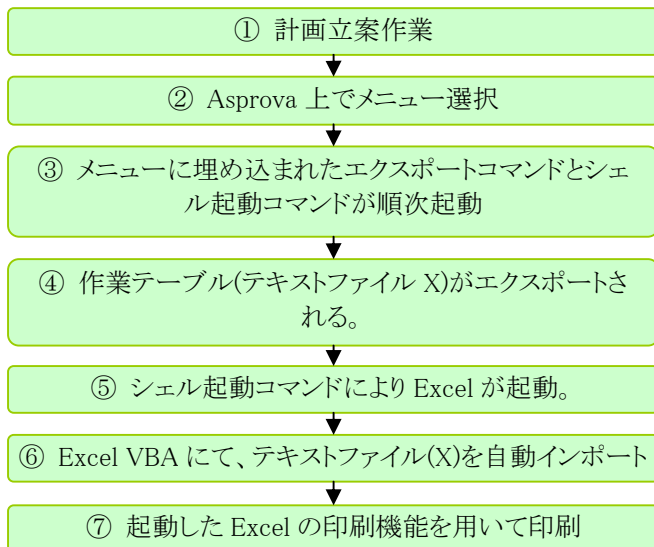
Asprova には標準で帳票出力機能がありません。あるにはあるのですが、テーブルビューのハードコピーに近い印刷になります([ファイル]-[印刷])。したがって、帳票を出力する際は、帳票ツール(ウェブサイトの「連携可能システム」をご覧ください。)を利用するか、Microsoft Access や Microsoft Excel(以下 Excel)の印刷機能を利用して出力することがあります。今回は、Excel を例に挙げ、Asprova から帳票の元データを出力し、そのまま Excel を起動して印刷する設定をご紹介します。

ヘルプ

「印刷時のヘッダー/フッターや表示サイズ、期間を設定する」
(HelpNo.:219000)

帳票出力までの流れ

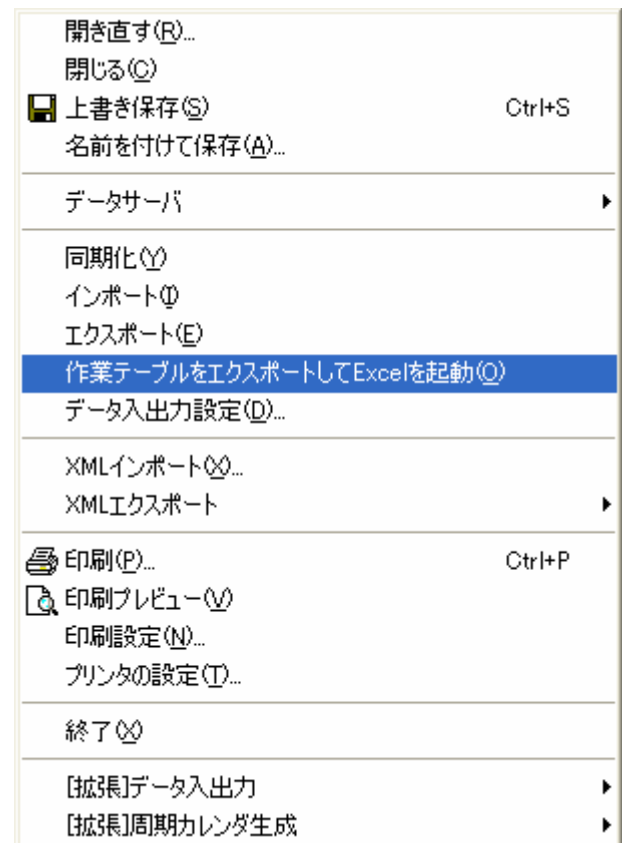
リスケジュールしてから帳票を印刷するまでの流れを以下のようにすることにします。



▲ 図 1 帳票印刷までの流れ。メニューを選択すると、③～⑥の処理が一括して実行され、Excel ファイルが印刷直前の状態になります。

設定例を見てみましょう

付属データを見てください。カスタムメニューにて、[ファイル]メニューに[作業テーブルをエクスポートして Excel を起動]メニューが埋め込まれています(図 2)。



▲ 図 2 カスタムメニュー

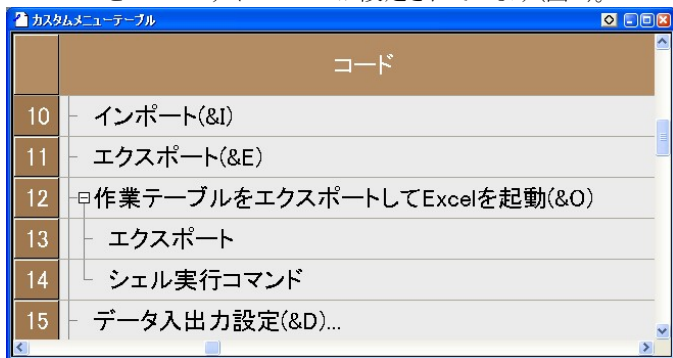
さらに、そのメニューの中には、エクスポートコマンドとシェル実行コマンドが埋め込まれています(図 3)。このエクスポートコマンドの「DBIO オブジェクト(エクスポート)」プロパティには DBIO オブジェクト「作業 A」「作業 B」「作業 C」が指定されています。これら 3 つの DBIO オブジェクトには「エクスポート時フィルタ式」が設定されており、資源ごとに別々のテキストファイルを出力するようになっています(作業 A→資源 A、作業 B→資源 B、作業 C→資源 C)。作業テーブルだけがエクスポートされるようになっています。作業テーブルはタブ区切りのテキストファイルであり、エクスポート先は

C:\Program Files\Asprova corporation\Asprova\operA.tbl

試してみよう

C:\Program Files\Asprova corporation\Asprova\operB.tbl
 C:\Program Files\Asprova corporation\Asprova\operC.tbl
 となっています。

そしてシェル実行コマンドには「シェルコマンドライン」プロパティと「シェルコマンドパラメタ」プロパティに起動するプログラム名である Excel.exe と Excel ファイルのパスが設定されています(図 4)。



▲ 図 3 カスタムメニューの中には、エクスポートコマンドとシェル実行コマンドが埋め込まれている。

プロパティ	値
シェル実行コマンド	シェル実行コマンド
シェルコマンドライン	Excel.exe
シェルコマンドパラメタ	"C:\Program Files\Asprova corporation\Asprova\帳票.xls"

▲ 図 4 シェル実行コマンドには、コマンドラインとその引数が設定されている。

帳票.xls を

C:\Program Files\Asprova corporation\Asprova
 において、メニューを実行してみましょう。そうすると図 1 の処理が一括で実行され、Excel ファイルが起動してきます。あとは、手修正を加えて、「資源 A」「資源 B」「資源 C」を印刷すればよいわけです。

資源A		指示書		修正		作成	
修正日	作成日	係長	担当	係長	担当	係長	担当

作業コード	開始予定日	品目コード	数値仕掛	仕掛	数量	副資源	納期
	検査	オーダ品目名	数値仕掛2	仕掛2		1 2	
220	06/04	A-20	200	青	30		06/13
		製品A	0.2	H2			
420	06/23	A-20	200	茶	60		06/25
		製品A	0.2	H1			
520	06/18	C-20	100	黒	100		06/24
		製品C	0.5	H1			
820	06/09	C-20	200	黒	80		06/26
		製品C	0.2	H1			
1020	06/10	C-20	200	黒	50		07/02
		製品C	0.2	H2			
1420	06/26	C-20	200	赤	50		07/02
		製品C	0.2	H2			

▲ 図 6 出来上がった帳票。

応用: リスケジュール時に Excel を起動

②の部分はメニュー駆動ではなく、①のときの計画パラメタの中に組み込んでしまっても良いでしょう。そうすると、リスケジュールボタンを押すだけで Excel の帳票が起動してくるようになります。データ(knowledge010.ar4)では、計画パラメタ「リスケジュール後に帳票出力」にて、そのように設定してあります。

53	リスケジュール後に帳票出力
54	デフォルト計画パラメタ
55	帳票出力
56	エクスポート
57	シェル実行コマンド

▲ 図 7 計画パラメタの中で、帳票出力と Excel の起動を埋め込んだ場合。

ヘルプ

「データ入出力の概要」(HelpNo.:757100)
 「シェル実行コマンド」(HelpNo.:778400)

サンプルの Excel 帳票ファイル

サンプルの Excel 帳票ファイル「帳票.xls」は、VBA にて、起動直後に operA.tbl, operB.tbl, operC.tbl をインポートするようになっています。データはそれぞれ「RawData1」「RawData2」「RawData3」シートにインポートされるようになっており、さらに「~資源 A」「~資源 B」「~資源 C」シートは、「RawData1」「RawData2」「RawData3」のデータを参照するようになっています(図 5)。

▲ 図 5 Excel の帳票のシート(~資源 A)。各セルには「RawData1」シートからデータを参照する数式が設定されています。

帳票のレイアウトは「~資源 A」「~資源 B」「~資源 C」シートでデータと独立してデザインできるようになっているので、好きなように変更してみてください。

また、Excel 起動直後の処理はもう 1 つあり、「~資源 A」シートの内容を「資源 A」シートに値でコピーするようにしています。これは、「~資源 A」シートの各セルは「RawData1」シートからの参照になっているので書き換えられないのですが、指示書の配布前に数字を修正できるようにするために書き換え用として用意しているものです。詳しくは VBA のソースをご覧ください。

お問合せ先

アスプローバ株式会社
 Tel: (03)5498-7071 Fax: (03)5498-7072
 Web: <http://www.asprova.jp>